

【目次】

1	事業報告（所長）	2
2	地域包括支援センター	3
3	地域交流事業	4
4	生活支援体制整備事業	6
5	居宅介護支援事業	7
6	通所介護部門	8
7	通所介護給食部門	9
8	横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業	10

平成29年度 横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 事業報告

【法人理念】

「いのちを敬い いのちを愛し いのちに仕える」

【目的】

「私たちは地域の方々が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう福祉保健サービス等を行います」

【基本方針】

「利用者や地域に貢献するために各部門・地域や行政等と連携します」

「互いに資質向上に努め、信頼につながるサービス体制をつくります」

私たち横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ職員は、朝礼時に上記の言葉を読み上げてから業務を始めています。

私たちの働きは、地域の皆さまの力になることができたでしょうか。

私たちの姿勢は、地域の皆さまの信頼に足りるものだったでしょうか。

この後各事業の報告をいたしますが、ケアプラザを代表する立場としての報告は以下の言葉に集約させていただきます。

地域の皆さまの優しさと温かさに支えられながら平成29年度も職務を全うさせていただきました。これに甘えず、地域の皆さまが本来持っている様々な力が発揮できるよう、これからも心を込めて関わらせていただきます。よろしく願いいたします。

所長 下山 直樹

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域包括支援センター	西村 明史
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、地域の高齢者の心身の健康維持、介護予防・保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助・支援を包括的に行なった。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 下記業務を区福祉保健センターと密接な連携を図りつつ行った。 1 包括的支援事業； ア 第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るものを除く） イ 総合相談支援業務、 ウ 権利擁護業務、 エ 包括的・継続的ケアマネジメント業務 オ 在宅医療・介護連携の推進 カ 生活支援サービスの体制整備 キ 認知症高齢者の総合的支援 2 介護予防支援業務 3 第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るもの）
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 相談には迅速・丁寧な対応を心がけた。必要があれば訪問して相談を受けた。よりの確な支援をするために資質の向上を図った。…相談件数：年間1,436件 2 介護予防事業の開催及び認知症予防、ロコモ予防等の普及啓発 …年間 64回実施 3 権利擁護の普及啓発研修 共催で3回を含め、計9回開催、認知症の勉強会 1回開催 4 介護予防プランを作成し、要介護状態になることの予防に努めた。…年間1,314件作成 5 地域ケア会議の開催 個別会議 年間4回実施、 包括レベル会議 年間2回実施
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 地域のアセスメントや事業の評価・再構築をしていくために、主に地域ケア会議を通して、資料等のデータ化・見える化に取り組み、より客観的な分析を試みるようにした。 2 多問題ケースなどの相談の増加に対応し、さらなる情報共有・対応力の強化を試みた。経済的課題、成年後見、虐待疑いなど権利擁護の対応等に適切に出来るよう研修の参加や研究活動（社会福祉学会での研究報告）、有識者や他職種からの助言を積極的に頂いた。地域ケア会議を通し地域課題の抽出、共有、解決策の検討と障がい者支援機関とのさらなる連携強化を図った。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 行政や地区社協だけでなく、自治会や地域の施設、医療機関、障がい者支援機関、店舗、ボランティア等様々な方々とのネットワークを維持強化に努めた。 2 認知症対応のための徘徊SOSローカルネットワークをはじめ、あんしんネットワーク、施設連絡会等の地域のネットワークに関する関係機関との連携強化に努めた。 旭区SOSネットワーク協賛店、SOSローカルネットワーク発見依頼機関 訪問：41店舗・機関（1店舗新規）
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 生活支援体制整備部門、地域活動交流部門、横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業と会議等を通して、地域課題に関する情報の共有に努めた。地域包括支援センターと各部門と共催で地域住民向けの研修会や介護予防の企画などを行なった。
VII	残された課題・評価・その他の特記事項 今後も地域の高齢化、福祉課題の複雑化が予測される。ケアプラザ内の各事業（生活支援体制整備部門、地域活動交流部門、横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業）、自治会や地区社協、行政、医療、高齢者や障がい者支援機関等と連携し、地域支援の在り方について対応方法を協議していく必要がある。

平成29年度事業報告 部門名		報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域交流部門		溝口 成一
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 1 ケアプラザが地域の福祉保健の拠点として地域住民が気軽に利用する施設を目指し、今年度は生活支援コーディネーターと共催など、ハマトレ体操、社交ダンス等、新たに9種の主催事業を新設、また小中高校生の福祉体験や高齢者との交流会などを実施した。 2 地域に必要な情報を収集し、広報・掲示等で情報を発信した。 3 地域包括支援センター等と連携し、多様化する相談内容に対し適切な対応を行った。	
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1 地域包括支援センター等と連携して相談内容の分析を行い、地域住民より「ケアプラザに行くことが大変」という声がありそれに応えるために、西ひかりが丘公団集会所に向きハマトレ体操を毎月1回行った。 2 地域の関連機関や行政と連携する為に会合や連絡会へ積極的に参加した。 3 相談者が安心できるようなあたたかい窓口対応を行った。 4 広報活動については月1回発行の便りをカラーに変更し、貸室予定を箇条書きからカレンダーの表に入れて見やすくした。 5 快適な施設環境を維持した。 6 地域のニーズに即した主催事業を実施できるようアンケートを作成し、情報収集を心がけた。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 主催事業を月10種、延べ20回以上開催した。 2 連携・情報共有連絡会等を月1回以上の開催、または参加した。 3 来館者数月平均 2,124名 計画比106%増 4 広報誌、事業案内を月1回発行する。掲示板の「今日は何の日」（営業日毎）、部屋利用状況表（毎週）を更新する。前年度にリニューアルしたホームページを活用し、月1回以上事業等の報告を行った。	
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 窓口業務の見直し 来館者への目配り、声かけ、玄関回りの人の動きに注意し事故を防ぐ。来館した方が体調を崩した場合に、感染対策や救急対応を誘導できるようマニュアルを配置、対応法の復習を行った。 2 快適な施設環境維持 職員全員が館内外に気を配り、施設の点検・修繕・備品管理にも気を配り安心して利用していただける環境を作った。 3 各イベントや講座の企画・遂行をスムーズに行えるよう、スタッフが段取りや進行状況を共有できるようなしくみのマニュアルを活用作成した。 4 ケアプラザ内の掲示板・チラシなどの情報を、分類するなど掲示方法を工夫し、閲覧しやすくした。 5 ケアプラザを挙げての地域支援を行えるよう、他職種連携の場を通じ情報共有・提案・相談等、意見交換を積極的に行った。 6 地域住民の活動の場へ積極的に参加し、関係作りに努めた。	
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 地域の見守りネットワークの維持への支援として連絡会を定期的実施することができた。 2 地域ボランティア団体への支援や情報提供、各団体からの意見収集に努めた。 3 内外掲示板や地域へ配布している“ひかりが丘便り”を有効活用し事業チラシや、地域防犯につながる情報発信の強化を目指した。 4 災害・感染症など有事の際の役割確認と、地域との防災協力体制の強化を目指した。	
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 地域交流主催事業の立ち上げ 年度中に10種・包括支援センターとの共催事業を1種立ち上げた。また外部との情報の共有を行った。 2 ケアプラザへ来所出来ない方、引きこもりがちの方等、個別ニーズを把握した上で行う出張支援の取組みを行った。	

VII 残された課題・評価・反省・その他の特記事項

- 1 新規主催事業を立ち上げたことで新たな利用者・ボランティアの参加がありケアプラザの利用者は増えたが、比較的リピーターが多い為できるだけご利用のあまり無い方などに来館いただけるような事業展開を行っていきたい。また、地域住民とコミュニケーションをとりニーズを把握し、地域住民が利用しやすいケアプラザを目指したい。

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 生活支援体制整備事業	飯田 竜一朗
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 地域包括ケアシステムの構築に向けて、生活支援コーディネーターの配置や協議体の設置を通じ、多様な主体による多様な支援の提供体制を構築し、生活支援・介護予防の充実した地域づくりに取り組んだ。 地域包括ケアシステムの構築の為、生活支援コーディネーター配置を通じ、地域住民及び多様な団体より情報収集を行い、地域課題の抽出及び、資源情報リストの更新を随時行った。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1 住民主体の活動団体の内容を広報誌などへ掲載し、地域の方々に周知した。 2 介護予防・生きがい作りの為の活動団体の担い手育成及び担い手募集を行った。 3 地域住民及び地域活動団体等への聞き取り調査を通じ断続したアセスメントを行った。 4 日常生活支援総合事業の推進を図る為、住民主体の活動団体への情報提供を行った。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 生活支援体制整備事業の推進を図る為、区社協と連携し住民主体の活動団体へ年6回の研修を実施した。
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 ケアプラザを挙げて地域支援を行えるよう、各種会議・連絡会・懇談会などへ参加し他職種との情報の共有や相談・意見交換を行った。 2 地域で行われる行事には積極的に参加し地域住民の方々との関係作りを行った。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 活動基盤の強化を図る為、住民主体の活動場所へ積極的に参加し地域住民の方々との関係性強化を行った。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 区社協と区内生活支援コーディネーターとが連携し3つの連絡会を立ち上げ、住民主体の活動団体への情報提供や研修体制、また広報を通じ活発な活動のサポートを行った。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 高齢化及び人口減少が非常に顕著に表れている地域の中でも、意欲的に活動されている方が多く存在しており、その方々の負担が急増しているのが現状の課題と考えている。 地域で行われている様々な活動が担い手不足及び高齢化や負担増により活動自体が縮小傾向にある。現状の活動者の負担軽減及び活発な活動支援の観点から待ったなしの担い手補充が必要と感じており、ボランティアの広報募集だけではなく様々な担い手確保の方法を地域包括・地域交流及びケアプラザ全体で協議・相談し実行に移していきたいと考えている。

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 居宅介護支援事業部門	江口 直美
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 地域の方々が独居、老老介護など困難な状況であっても、住み慣れた自宅で暮らせるよう、安心と信頼を提供した。ご利用者の意思を尊重し、その有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことが出来ることを目指し、支援を行った。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1.互いに連携する <ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施される民生委員懇談会に出席し、情報交換を行った。 ・サービス事業所、地域包括支援センター、行政、医療機関、等からの相談には積極的に対応し連携を深めた。 ・ケアプラザ協力医とケースカンファレンス会議を実施し連携を深めた。 ・予防介護支援事業と協力し予防支援居宅サービス計画書作成した。 ・旭区からの認定調査の委託に対応し、地域の方々に資するよう務めた。 2.互いの資質を向上させ信頼に繋がる体制を作った。 <ul style="list-style-type: none"> ・運営基準に基づいたサービスを実施した。 ・月に一回事業所内事例検討会を実施、一つの事例に対し多方面からの意見を得られる場を作った。 ・事業所内で連携を図り、包括・地域・通所からの情報、助言を受けられることで、緊急の際も早急に対応出来る体制を維持していった。 ・「サービス内容に関するご利用者アンケート調査」により、業務の振り返りと改善を実施した。 ・新規開設の地域の福祉・保健サービス等の情報を収集しご利用者のニーズにあったサービスを提供出来る体制を作った。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 居宅サービス計画書作成件数：年間1,020件に対し1106件 2 介護予防支援計画書作成件数：年間480件に対し627件 3 認定調査受託件数：年間：80件（区外からの委託を含む）に対し91件 4 事例検討会の実施：年間：6回に対し6回
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 家族の介護力が低いことから、本来家族が行うべき保険外の内容にケアマネが関わらざるをえない状況が多くなっていた。行政、地域が行っているインフォーマルサービスを取り入れる、家族に対しアドバイスをするなどの対応を図った。 2 問題となるケースに関しては、包括、区のケースワーカーと共に解決策を見出していった。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 地域ケア会議に参加し有権者、他職種からの助言を受け、さらなる情報共有、対応力の強化を図った。 2 地域の方々に「信頼」を提供出来るよう顔の見える関係作りを構築していった。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 要支援者に対する総合事業への移行が始まった。利用者は混乱なくサービスが継続できている。 2 インフォーマルサービスを積極的に利用し、業務の向上と本人の意欲を上げて行った。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 今回の改正で医療との連携が重要とされている。独居での在宅看取りなども増えていくであろう状況の中で、医療、各サービスと密に連携を取り、在宅でその方がその方らしく生きていける体制を構築していくことが重要と考えられる。

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護	竹内 葉子
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 1 デイサービスの支援が必要な利用者の意欲と生活機能及び生活意欲の維持・向上をめざして、サービスを提供した。 2 地域福祉の担い手として責任感を持ち、多様な資源との『繋がり』を大切に『謙虚な気持ちで』ご利用者及びご家族への支援を実践した。 3 利用者・家族・ボランティアに職員が、それぞれに《目配り・気配り・心配り》を行うことによりさらに暖かくご利用者からも地域からも必要とされるデイサービスを目指した。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 笑顔で迎え、笑顔で送るデイサービス。「来てよかった」「また来たい」と笑顔で過ごしていただけるデイサービス。ご利用者や家族が安心できるデイサービス。常に安全とサービスの質の向上を意識して日々の業務に取り組んだ。 1 制度に則した運営：利用者それぞれの生活にあった、選べるサービス、また個々に必要とされるサービスを提供し誰もが安心して生活が送れるよう関係法令を遵守し、計画的な事業を行った。 2 サービスの質の向上：プログラム制のレクリエーションを導入、継続することによりデイサービス利用時の目的、目標を持ちケアマネジャーや家族にも周知徹底し、個々の生活に楽しみや目標意識を確立する。また継続して活動することにより、体力や集中力の向上に目標を取り組み、且つ技術的、能力的にも意識した行動を行った。 3 情報発信：必要に応じご家族やケアマネジャーに文章や電話などで情報の提供を行い、特に身体的及び精神的に急を要すると判断した時は、速やかに家族のみならず医療等、関係機関とも情報共有に努めた。その際は必ず発信記録を怠らない。また、急変時の連絡体制及び連絡方法も事前に確認し事業所間で共有することを徹底した。 4 地域社会及び関係各所との連携：地域包括支援センターや関係機関と連携し、特に問題ケースでは早めに対応した。その際は写真撮影などにより情報共有を的確に出来るようにした。 5 個人情報の適切な管理：個人情報の有用性に配慮し、その権利と安全を保護した。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 一日平均延38人以上のご利用者数を確保。（大規模事業所I・定員40名） 実施人数 1日平均35名だった。 2 介護サービス情報の公表の調査項目を全て実施した。
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 3時間、5時間、7時間、3通りの利用時間の導入により、利用者個々の生活の中、体力や症状により利用時間の見直しを行った。 2 送迎を含め利用時間内の事故に対し、連絡、対応のマニュアルを徹底したが、事故を無くすことはできなかった。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 職員の配置において、役割の見直しと細分化をする。 2 年間を通し、6回以上の施設内研修を行った。 3 マニュアル等の見直し、常に改善個所において再作成をする。50%達成。 4 利用者受け入れについて、スタッフの許容と受け入れが可能か判断していく。新規利用者について検討し、全て受け入れた。 5 テラスの美化、及び四季を通して自然の環境を作る。清掃など不十分だった。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 曜日別レクリエーションに各担当を決め、それぞれの活動がマンネリ化しないよう、常に新たな活動メニューを取り入れ、利用者の満足度向上に結び付けた。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 人員配置は整ったが、反比例するように利用者の減少に歯止めが利かない。今後職員の適正数配置と利用者の確保、規模の確認等を検討していくことが必要になる。

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護給食	竹内 葉子
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 健やかな生活を支える基本となる食事を提供するために、季節感が楽しめる新鮮な野菜を多く使い、栄養バランスの良いメニューを工夫して、普段自宅では食べられない食事提供を行った。また地場野菜を取り入れて野菜多めの昼食を提供した。 又、嚙む力が衰えている方も安心して栄養が確保できることや、素材の味を生かした薄味の調理を目指した。 毎月発行の「献立表」で料理を紹介した。
II	業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと） 1 選択食やお楽しみメニューを取り入れ、ご利用者の満足度を高める献立づくりをする。 2 相談員、介護職、看護職と連携をとり、安全で美味しい食事の提供に努める。また個々の身体状態に合わせ、食材、形態など対応する。常に代替えの提供が出来るよう食材の準備を怠らない。 3 間食のメニューの多様化、また量とカロリーへの配慮を徹底する。 4 一食20種類以上の食材を摂り入れ、提供メニューのなかで重ならないようにした。 5 スタッフ全員の技術向上と介護食の知識習得に努めるためメニュー検討を毎日行った。 6 調理業務に必要な衛生管理、検査等を徹底することで食中毒や感染症の予防に努めた。
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 誕生日に一品、メニューリクエスト制を継続した。利用者の楽しみの一環となった。 2 季節毎の行事食の提供。12回以上提供した。 3 週に一回以上のお楽しみメニューを導入。季節感を意識してワンメニューの時、果物の提供を意識して多く取り入れた。
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 食材の廃棄をなくす。一人分の材料の食材を測った。 2 作りすぎを防ぎ、無駄の無い調理を徹底した。 3 職員一人一人が担当を決め、食材の管理に責任を持つ。在庫の管理も徹底した。
V	業務の強化・向上（強化・向上したこと） 1 ご利用者の帰宅時に見守りに出て親しく話す中で、献立、味付けなどについて、直接の声を伺い、調理に活かしていく。また後日同じ利用者に会話を試みるも評価につながることは少なかった。 2 配膳時は食事量、塩分、糖分の調整、食欲のない方への配慮などご利用者一人一人への心配りを行い、食札以外の嗜好など顔を見て食事の提供を実施した。代替品は小鉢に至るまで配慮を怠らなかった。 3 毎月「給食会議」を行い、美味しく食べやすいメニューや調理方法について検討する。行事や季節食について、会議を通し介護職員からも積極的に意見を求めメニューの幅を広げていく。また食札の在り方についても協議した。 4 誕生日のリクエストメニューの継続することにより、より細かい嗜好調査を行い記録した。その結果を日常の食事提供にも役立てる事が出来た。 5 食札及び個別対応表を常に見直し、特にアレルギー食の誤配、誤食が起きないように努めた。今年度誤配はなかった。
VI	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 新メニューの考案に努めたが、現場実習は取り入れられなかった。 2 旬食材にこだわり、調理法など購入業者からもアドバイスを受けた。その結果食材の使い方に幅が広がった。 3 通所介護の行事等に積極的に参加しご利用者とのコミュニケーションを図る。顔と名前わかる関係化を構築した。
VII	残された課題・評価・反省・その他の特記事項 利用者が減少している。食材の使い方をどのようにしていくか、人数で使う量をしっかり把握していかなければならない。また肉や魚の調理法にもっと幅を持たせたい。新メニューの考案をしていく。

平成29年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業	岩並 仰
I	<p>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <p>高齢化が著しい市営ひかりが丘住宅において、生活援助員(LSA:ライフ・サポート・アドバイザー)として、居住される高齢者の生活に関する相談、見守り、安否確認を行った。また、住民同士のつながりの場の提供、自助・互助の促進のためにお茶のみサロンを開催した。アウトリーチ活動として、新規入居世帯等への訪問を行い、問題の早期発見、早期解決を目指した。</p> <p>相談者実数：180名 相談延件数：373件（内 来場：56件 安否確認時：85件 その他：232件） 相談内容内訳 病気：66件、介護：35件、経済面：19件、家事：30件、子育て：2件、 家族関係：32件、制度関係：51件、防犯・被害：29件、近所関係：65件、住環境：44件 相談への対応（重複あり） 傾聴：291、情報提供：137、書類提出支援：13件、助言：113件、その他：16件、引継ぎ：96件 相談対応結果 解決：127件、不安軽減：70件、引継ぎ：66件、継続：148件、不満：2件 お茶のみサロン開設数：100回 サロン参加者実数：72名（内 男性20名 女性52名） サロン参加者延数：1622名（1回平均16.2名） 見守り事業登録世帯総数：128世帯（3月末時点での継続：122世帯） 見守り登録者の性別 男性：43名 女性：85名 転入世帯訪問 計132件 見守り事業勧奨訪問 計2630件</p>
II	<p>業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助：モデル事業からの活動を通じて、LSAへの信頼が蓄積し、「何かあれば相談できる」存在として入居者に浸透したことが、相談件数に表れていると考える。 2 見守り事業：登録世帯が着実に増えている。孤立死が0件だったことが何より嬉しい。 3 お茶のみサロン：問題なく運営できた。地域に定着した。 4 アウトリーチ活動：地道な業務だが、効果は大きい。今後も継続していけるかが課題。
III	<p>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相談対応後の結果(不満)件数の目標が0件のところ2件だった 2 見守り登録世帯の総数100世帯以上を維持できた。 3 見守り登録世帯の孤立死件数0（ここでの“孤立死”の定義は、「死後4日以上経過して発見された事例」とする）。 4 お茶のみサロン参加者平均10名以上の維持ができた。 5 新規入居世帯への、6か月以内の訪問をすることができた。
IV	<p>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入居者にいちばん近い存在として、関係機関への連絡調整、つなぎ役に徹した。そのためには、入居者に寄り添い課題を受けとめ的確に分析することが重要だと分かった。 2 お茶のみサロンでは、イベントを開催するなど、新たな参加者を呼び込むことができた。ただ、常連が固定する傾向は強まっているように思える。 3 LSAとして、安否確認の対応は経験が蓄積しているので円滑に行えた。しかし、負担感を軽減する具体的な施策があったわけではない。
V	<p>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特にメンタルケアについて重点的に学んだ。発達障害についてなど。 2 お茶のみサロンでは、外部講師による消費者講座を開いて啓発の場とした。他、入居者のボランティアによる音楽会イベントも開催した。
VI	<p>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <p>若い障害者等の世帯の困りごとを把握した場合は、旭区のケアサポートガイドを配布するなどした。しかし既存の受け皿だけでは不足していると考えた。</p>

VII 残された課題・評価・反省・その他の特記事項

相談対応結果(自己評価)のうち〈不満〉2件は、いずれも精神疾患が絡むケースであった。メンタルケアについては研修を受けるなど努力しているが、対応に苦慮し不安も大きい。専門職のサポートが必要である。また、いわゆる「ご近所トラブル」で解決が難しく対応を継続しているケースが少なくない。関係機関が必ずしも対応してくれるわけではなく、LSAとしてもできることが乏しい中で、どう困難に寄り添っていくかが課題である。

お茶のみサロンでは、数値目標も掲げ、達成することもできているが、より重要なのは「何人来るかではなく〈誰が〉来るか」である。「サロンでしかつなげられない人」が来ているのかどうか。

平成29年度 自主事業報告書

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
合同歌声喫茶 2017	(目的) 歌好きの方々が集まって仲間作りや健康作り。また外出の機会を作る。区内の全ケアプラザを紹介。 (内容) 2010年からスタートした合同歌声喫茶。毎年キャンセル待ちがでる程の人気事業に。2012年からは東日本大震災の募金活動も開始。集まったお金は職員が被災地に届けた。	年1回 (5月31日) 463名 旭公会堂
ひかりが丘 介護者のつどい 銀俱樂部	(目的) 介護者の会、情報提供、虐待防止。場所はひかり商店街の喫茶かふかぶ。 (内容) 介護者サロンとして、包括職員とサロン形式で雑談。親睦を深め虐待防止に繋げる事を継続している。	毎月第2金曜日 11回 51名
囲碁教室	(目的) 囲碁を通して高齢者・障害者等、地域の方の場所作りを目指している。 (内容) 外出することが苦手な高年男性や精神障害の方などを中心に年齢や障害のあるなしを問わず、囲碁を通して地域の方との交流の場所とした。ボランティアは福祉囲碁協会。	第1・3木曜日 第2・4水曜日 46回 455名
古典を学ぶ会	(目的) 高齢や障害で他の方と接する機会の少ない方が、日本の古典を読むことを通して、日常生活を捉えなおす機会を持ち、話し合う場として提供する。 (内容) 講師はご住職の方による、往生要集の購読など。	毎月第4木曜日 9回 35名
にこにこ会	(目的) 精神障害の方の居場所作り。 (内容) 会員同士で年間の計画をたて、食事会や外出の機会を設けることで社会性向上や日常生活に寄与する。旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと【共に歩む市民の会】との共催。	毎月第4木曜日 11回 92名
子ども科学クラブ	(目的) 地域の小学生の3年～6年生までを対象に、様々な科学おもちゃ工作を通じて科学的興味を育てる。 (内容) 講師の科学博物館ボランティアの藤野氏に毎月違う工作を指導して頂く。地域のボランティアも2、3名協力。	毎月第3水曜日 10回 138名
ひかりの会	(目的) 脳血管障害による言語障害のための親睦サロン。 (内容) 月に一度仲間と親睦を深め、多少の言語リハビリも行うサロン活動。	毎月第4火曜日 11回 82名
癒しの音楽 研究会	(目的) 地域住民の閉じこもり防止、ストレス解消、心の安定を図る。 (内容) 癒し系の音楽(ヒーリング音楽、クラシック、オルゴール等)やリラックスできるような音楽を聴く、あるいは音楽をBGMにしてリラックスした状態で参加者がコミュニケーションを図った。	毎月第2日曜日 11回 56名
上白根地区 民生委員懇談会	(目的) 地域の民生・児童委員とケアプラザ職員の情報交換・研修等実施による連携強化。 (内容) 市営・UR団地の民生・児童委員と地域交流、包括支援センター、居宅介護事業所のメンバーで情報交換・連携強化・研修等を行っている。旭区高齢障害支援課の地区担当も参加した。	毎月第2金曜日 10回 162名
施設連絡会	(目的) 地域の介護保険施設の相談員と定期的に情報交換を行い、地域課題の抽出・対応の検討などを行う。 (内容) 地域の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、高齢者グループホームの相談員等との情報交換や地域課題の抽出・対応の検討、ボランティア支援などを行った。	第3火曜日 4回 22名 A4:I47A2:I47B18A 18:I47A1:I47

事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
支えあい連絡会	<p>(目的) 地域施設連絡会、ひかりネット、SOSローカルネット、あんしんネットワークなどの活動を統括して地域の福祉につなげる。旭区と地域福祉保健計画推進についても、検討する機会。</p> <p>(内容) 地域の状況にあったテーマ・時期に会議形式で行った。</p>	5/8、8/23、8/24、10/27、1/29、3/3 6回 141名
健康吹き矢	<p>(目的) 地域の高齢者や閉じこもりの男性等の外出のきっかけづくり、また吹き矢による腹式呼吸トレーニングと腹筋・口の周りの筋力強化による健康増進。</p> <p>(内容) 呼吸法を意識しながら、ゲームを楽しんだ。</p>	第1水曜日 第3月曜日 第4土曜日 36回 242名
みんなの庭	<p>(目的) 園芸を通じた世代間交流。また、ボランティアとして参加して頂くことで、生き甲斐の一助となるような機会の提供。</p> <p>(内容) ケアプラザの庭の一部を開放し、季節を感じられる花と緑を年に2～4回植え替え、随時手入れに参加して頂く。募集は子どもから高齢者までの地域の方すべて。</p>	5/19、11/10 2回 71名
歌謡体操	<p>(目的) 健康体操を定期的に行う事で、転倒予防と交流の場をもつ機会を増やしていく。</p> <p>(内容) カラオケ機械のライブDAMの歌謡体操を主に、歌いながら体を動かしていけるようにする。またライブDAMだけに捕らわれず楽しく続けられるようDVD(四季の歌)も取り入れ、参加者に自ら選択してメニューを組み立てていく自主性を育むきっかけとした。</p>	第1・3月曜日 24回 451名
ひかりの輪	<p>(目的) 輪投げのゲームを楽しむことで外出のきっかけ、世代間交流となることを目的とする。</p> <p>(内容) 地域の方から寄付された輪投げの道具を利用し、グループ対抗の輪投げのゲームを行う。募集は子どもから高齢者までの地域の方すべて。</p>	第1・3日曜日 22回 235名
お守り&開運グッズ工作講座	<p>(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。</p> <p>(内容) 工作を通じて参加者同士の交流を図りながら、これまでケアプラザに来館されたことが無い方にとって福祉保健活動に関わる契機とすることを狙いとして開催。</p>	6/28、7/26、8/23 3回 27名
折り紙講座	<p>(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。</p> <p>(内容) 折り紙を通じて参加者同士の交流を図りながら、これまでケアプラザに来館されたことが無い方にとって福祉保健活動に関わる契機とすることを狙いとして開催。</p>	6/29 1回 14名
ハマトレ体操	<p>(目的) 健康体操を定期的に行う事で、転倒予防と交流の場をもつ機会を増やしていく。</p> <p>(内容) 介護予防を主として講師も出席者も共に健康に介護予防を行えるよう開催。口腔体操等も取り入れる。</p>	第2月曜日 第4日曜日 21回 229名
ミニ健康・介護予防講座	<p>(目的) 自身の健康管理及び介護予防について興味を持ってもらい、健康教室や介護予防事業への参加へとつなげる。</p> <p>(内容) 昼食会やサロンなどの参加者に向けて、短い時間でポイントを伝える。適宜関連事業への案内も行う。</p>	不定期 23回 450名

事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
健脚でGO!	<p>(目的) 健康体操を定期的に行う事で、転倒予防と交流の場をもつ機会を増やしていく。立位では運動が難しい方を主な対象とする。</p> <p>(内容) 介護予防を主として講師も出席者も共に健康に介護予防を行えるよう開催。椅子に座りながらでもできる、効果的な筋力トレーニングとストレッチを行う体操教室で、リハビリテーション体育士が指導。</p>	第2土曜日 8回 172名
旭北地区 民生委員 懇談会	<p>(目的) 団地外の旭北地区の民生委員(2名)との情報交換・課題検討等による連携強化。</p> <p>(内容) 当該地区の民生委員3名、旭区役所地区担当ケースワーカー・保健師、地域活動交流、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所ケアマネージャーのメンバーで実施。地域の現状や民生委員の活動についての悩みや課題の共有を行い、解決策や今後必要な活動等検討を行った。</p>	9月29日 1回 14名
楽しく健康! 麻雀くらぶ	<p>(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。</p> <p>(内容) 麻雀を通じて参加者同士の交流を図りながら、これまでケアプラザに来館されたことが無い方にとって福祉保健活動に関わる契機とすることを狙いとして開催。</p>	第4金曜日 9回 109名
初心者向け 社交ダンス教室	<p>(目的) 社交ダンスを定期的に行う事で自宅から出て交流の場をもつ機会を増やし、介護予防を図る。</p> <p>(内容) やさしく、楽しく心と体をリフレッシュいただき、身体に負担を掛けず楽しく健康に社交ダンスを行うことで介護予防を図る。</p>	第4金曜日 10回 214名
食品衛生講習会	<p>(目的) 地域で食事ボランティア活動に従事されている方々を中心に、食事提供における食中毒予防のポイントを理解頂く。</p> <p>(内容) 日頃から高齢者食事サービス・サロンなどで食事提供のボランティアをされている方の活動において、食事による事故を予防するための食品衛生講習会を実施。</p>	8月9日 5回 55名
夏休み 子どもクラブ	<p>(目的) 小学生対象の居場所作りとして始めたが、現在は夏休み中のお楽しみイベント(科学クラブ、クッキー教室、手芸教室など)で恒例となっている。</p> <p>(内容) 定期的に行っている子ども科学クラブに加え、クッキーなどの手作り教室を開催。</p>	7月~8月 5回 71名
第15回ひかり福祉 フェスタ	<p>(目的) 地域の福祉・障害に関わる団体の連携を強める。恒例行事を行うことでケアプラザへの関心を高め、利用をしやすいとする狙い。</p> <p>(内容) グループがバザーや催しを通じて地域との連携を深める。実行委員会(カプカプ他)と共催、包括では介護予防の啓発、地域交流では催しものにボランティアをコーディネート。</p>	11月19日 1回 450名
旭北地区 振り込め詐欺 防止講座	<p>(目的) 地域の高齢者が、振り込め詐欺などの被害に合わぬよう、事前に防止することを目的に講演会を実施する。</p> <p>(内容) 地域の昼食会にて、振り込め詐欺の被害防止講座を開催する。</p>	7/11、10/10 2回 101名
上白根地区 消費者被害・ 振り込め詐欺 防止講座	<p>(目的) 地域の高齢者が、悪質商法や振り込め詐欺などの被害に合わぬよう、事前に防止することを目的に講演会を実施する。</p> <p>(内容) 日本消費者アドバイザー・コンサルタント・相談員協会に依頼し、地域の昼食会やサロンにて、悪質商法や振り込め詐欺の被害防止講座を実施する。</p>	8/1、8/8、9/15 3回 109名

事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
認知症普及啓発勉強会	(目的) 地域の高齢者等が認知症について知識を深め、家族、親族、友人、近隣住民に発症した場合の対応方法を知ってもらう。 (内容) 認知症の症状や具体的な対応方法を体験談や資料、4コマ漫画を用いて講義する。	9月 2回 45名
高校生と地域の世代間交流	(目的) 地域の公園清掃を通して世代交流を図る。 (内容) 地域の県立高校のイベントを利用して老人会の皆さんと公園清掃を行い、親睦の場とする。	9月12日 1回 32名
ボランティアポイント講習会	(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。 (内容) ケアプラザを会場に、ケアプラザ職員が講師として講習会を実施。	9/16、10/6 2回 35名
うんどう教室	(目的) 後期高齢者向け健康体操「うんどう教室」を体験して頂くことで介護予防運動の啓発を行うと同時に、地域のボランティア発掘及びケアプラザのPRを行う。	11月27日 1回 61名
上白根地区版エンディングノート活用講座(成年後見講座含む)	(目的) 地域の高齢者等が終末に向けた不安感を軽減し、より良い人生を送れるよう旭区版エンディングノート書き方講座を実施する。講座内において、成年後見制度の講座を実施し普及・啓発を行う。 (内容) 旭区版エンディングノートを用い、記述例をもとに項目ごとの意図を説明しながら、一部実際に鉛筆で下書きをしてもらい必要性を認識してもらう。成年後見制度の概要を説明し制度の活用を促す。	11/4、12/2、1/6 3回 97名
西ひかりが丘地区エンディングノート書き方講座	(目的) 地域の高齢者等が終末に向けた不安感を軽減し、より良い人生を送れるよう旭区版エンディングノート書き方講座を実施する。 (内容) 旭区版エンディングノートを用い、記述例をもとに項目ごとの意図を説明しながら、一部実際に鉛筆で下書きをしてもらい必要性を認識してもらう。	12月15日 1回 14名
大人の料理倶楽部	(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。 (内容) お料理を通じて参加者同士の交流を図りながら、これまでケアプラザに来館されたことが無い方にとって福祉保健活動に関わる契機とすることを狙いとして開催。	第1、2金曜日 10回 59名
旭ふれあい区民まつり 行政・PRコーナー出展事業(旭区ケアプラザ共催)	(目的) 区内ケアプラザのPR (内容) 区内ケアプラザの周知のため、行政PRコーナーにて行政計画周知のためのPR活動の支援を行う。	10月15日 1回 282名
2017四季の森小学校4年生・視覚障がい者交流会	(目的) 学校の授業で点字の勉強をしたのを契機に視覚障がい者をもっと知りたいとの思いから、視覚障がい者と交流し、学ぶことで視覚障がい者を知り、更にケアプラザの紹介を行いケアプラザを知って頂く。 (内容) 視覚障がい者と交流しその方の思いや生活について学び、更にケアプラザの紹介を行い、ケアプラザを知って頂く。	12月4日 1回 52名
2017四季の森小学校4年生と高齢者の交流会	(目的) 小学生と高齢者が一緒に百人一首やトランプ遊びをしたりおしゃべりを楽しみ多世代交流でお互い元気になり、高齢者が家から出て子供たちとの交流を楽しんでいただき、双方にケアプラザを知って頂く。 (内容) 小学生と高齢者が一緒に百人一首やトランプ遊び、おしゃべりを楽しみ多世代交流でお互い元気になり、更にケアプラザを知って頂く。	3月5日 1回 29名

